

## 利用上の注意

### 1 概要

鉱工業指数は、鉱工業生産に関連する活動が経済全体の中で依然として高いウェイトを占めていること、景気の動きに敏感であること、速報性があることから、重要な経済指標のひとつとして広く活用されています。

本県でも県内における鉱工業の活動水準とその動向を把握するため、「経済産業省生産動態統計調査」の調査結果を中心に、「広島県鉱工業生産動態統計調査規則」に基づく県独自の調査のデータ、国や県の関係機関から収集したデータを基にして、毎月「広島県鉱工業生産・出荷・在庫指数」を作成、公表しています。

### 2 指数の構成

鉱工業指数の対象範囲は、製造工業と鉱業です。

業種分類は、日本標準産業分類に基づいて作成しています。

現行の指数は令和2年（2020年）を基準時としています。

### 3 採用品目数

生産指数 230 品目    出荷指数 230 品目    在庫指数 146 品目

### 4 ウェイト

ウェイトは、基準年次（令和2年）における「鉱工業」を10000.0とした場合の、業種ごと・品目ごとの金額構成比です。

（生産：付加価値額の構成比、出荷：出荷額の構成比、在庫：在庫額の構成比）

ウェイトの算定は、「令和3年経済センサス活動調査」を中心に、「経済産業省生産動態統計調査」などを基礎資料として行っています。

### 5 算式

品目別個別指数を基準時のウェイトで加重平均するラスパイレス算式を使用しています。

$$\text{品目別個別指数} = \frac{\text{品目別比較時（月）数量}}{\text{基準数量（令和2年1年間の1か月平均数量）}}$$

$$\text{総合指数} = \frac{\text{（品目別個別指数} \times \text{品目別ウェイト）の総和}}{\text{品目別ウェイトの総和}}$$

### 6 季節調整

鉱工業生産指数・出荷指数・在庫指数とも、米国商務省センサス局が開発したセンサス局法（X-12-ARIMA）により、季節調整を行っています。

### 7 指数の接続

令和2年基準指数は、平成30年1月までさかのぼって算出していますが、平成29年12月以前については旧基準の指数にリンク係数を乗ずることにより便宜的に接続させています。リンク係数の算出方法は次表のとおりです。

リンク係数(L)の算出方法

旧基準数指数	使用期間	リンク係数(L)の算出方法	
27年基準指数	平成25年～平成29年	$L_{27} =$	$\frac{\text{R27年基準指数の30年1月～3月の平均指数}}{\text{27年基準指数の30年1月～3月の平均指数}}$
22年基準指数	平成20年～平成24年	$L_{22} = L_{27} \times$	$\frac{\text{27年基準指数の25年1月～3月の平均指数}}{\text{22年基準指数の25年1月～3月の平均指数}}$
17年基準指数	平成15年～平成19年	$L_{17} = L_{22} \times$	$\frac{\text{22年基準指数の20年1月～3月の平均指数}}{\text{17年基準指数の20年1月～3月の平均指数}}$
12年基準指数	平成10年～平成14年	$L_{12} = L_{17} \times$	$\frac{\text{17年基準指数の15年1月～3月の平均指数}}{\text{12年基準指数の15年1月～3月の平均指数}}$
7年基準指数	平成5年～平成9年	$L_7 = L_{12} \times$	$\frac{\text{12年基準指数の10年1月～3月の平均指数}}{\text{7年基準指数の10年1月～3月の平均指数}}$
2年基準指数	昭和63年～平成4年	$L_2 = L_7 \times$	$\frac{\text{7年基準指数の5年1月～3月の平均指数}}{\text{2年基準指数の5年1月～3月の平均指数}}$
60年基準指数	昭和58年～昭和62年	$L_{60} = L_2 \times$	$\frac{\text{2年基準指数の63年1月～3月の平均指数}}{\text{60年基準指数の63年1月～3月の平均指数}}$

なお、原指数、季節調整済指数のいずれを接続する場合においても、リンク係数の算出には季節調整済の指数値を用いています。

8 内容についてのお問合せ先

広島県総務局統計課（産業統計グループ）

〒730-8511 広島市中区基町10-52

電話 082-513-2542